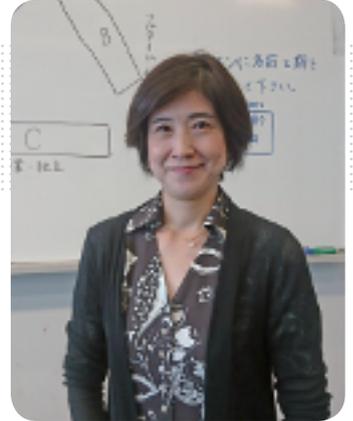


一步踏み出して 得られたこと

—始まりは明治大学スマートキャリアプログラム



池田 三和子

【いけだ・みわこ】東京都出身。明治大学短期大学卒業後、航空会社で客室乗務員として勤務。退職後、結婚。育児をしながら家業の材木商の経理、総務を担当、現在取締役。2016年明治大学スマートキャリアプログラム履修。2018年から品川区「とごふの会」「しながわ木育ネットワーク」メンバーとしても活動している。

◆ 明治大学スマートキャリアプログラムとは

女性の仕事復帰、キャリアアップを支援する目的で、金融、財務、マーケティング、ビジネススキルなどについて、明治大学の教授や女性経営者、専門家からの講義、実践の指導を受講できるプログラムです。講義は半年間の短期集中で行われます。

◆ 受講のきっかけ

今から3年前、出身校である明治大学の広報誌にスマートキャリアプログラム受講生募集の記事があり、講義の内容に興味を持ちました。ちょうど高校と大学に進学した2人の娘の子育ても、ひと段落していたタイミングでもありました。

私は結婚後、育児のかたわら家業である材木商の仕事を補佐的に手伝っていたのですが、スマートキャリアプログラム受講生募集の記事を見て、「従業員の育成や会社のビジネスチャンスの発掘を主体的にできるようにになりたい。さらには、会社と自分個人の社会に対する役割を明確にしていきたい」と考えました。本音を言えば「このままでも終わらたくないな、もう一步踏み出したいな」という気持ちがありました。

◆ 印象に残る講義内容

私が2016年に受講したプログラムの中で、特に印象に残り、その後の実生活でも生かされている講義を3つ挙げます。

1つ目は、株式会社感性リサーチ代表取締役黒川伊保子氏による「男女脳差理解と感性マーケティング」です。黒川氏は人工知能の研究開発に携わり、その実績から性別、年齢、時代による感性の差を分析した理論に基づいて、「女性が男性型ビジネス社会でどうふるまうか」を軸に指南いただきました。この講義の成果として、仕事上

でも、夫婦のコミュニケーションでも、タイミングや内容を考えて提案すると理解や共感を得ることが多くなりました。

2つ目は、明治大学の樋渡雅幸先生による「実践ゼミナール」です。実際の企業からテーマをいただき、チームメンバーでスケジュールを立て、調査分析をして、パワーポイントで資料を作成して、企業に発表して評価をもらうというものでした。職業経験、スキル、生活環境の異なるチームメンバーでしたが、目標に向けてそれぞれの役割を果たして、作り上げていく過程で、チームとして成長していく実感がありました。日常では、子育て仲間や同年代の「共通項」の多い人たちとの集まりに慣れていたので、共通項の少ない幅広い年代の人たちと、意見を交わして課題に取り組んでいく経験は、私の人生観に変化をもたらしたと言っても過言ではありません。

3つ目は、琉球大学の藤野公子先生による「ビジョン・ロードマップ講座」で、藤野先生開発の工程をもとに、人生を価値あるものにするための、身体、仕事、人間関係、お金、社会貢献の5つについてビジョンを具体的に描いていくというものです。過去の人生の棚卸をしながら、プログラムで出会った人たちと意見を交わしていくうちに、いつの間にか背負っていた鎧を1枚ずつぬいで、今後の人生に必要な最低限の武器を探していくような作業でした。プログラムの修了が最終目的ではなく、更新していく

ことが前提にあったので、一緒に受講した人たちは、修了後も常に情報交換し、叱咤激励を継続しています。

◆ 受講後に実践したこと

プログラムで身につけたコミュニケーションスキルを生かし、家業の会社内で、年齢も性別も多様な従業員との風通しの良い職場づくり（意見を言いやすい雰囲気、体調を思いやる雰囲気など）に女性役員として努めています。

会社の潜在的な強みを生かすために、新事業も立ち上げました。会社が木材の商いをしていくことから、森林を守り、林業を営む人たちと街で木を使う人たちを「結びつける」事業です。新事業第一弾として間伐材を加工した「ランチョンボード」を企画しました。ランチョンボードはプログラムで同期だった仲間の協力で、素敵なテーブルコーディネーターに生かされました。

また、木を最後まで使い切ることが、森林環境や山の人たちの生活を支え、街の生活にも影響があることを伝える勉強会やワ



ランチョンボードを使った
テーブルコーディネーター



ワークショップに社員が親子で参加

ークショップなども企画運営しています。受講以前の私ではなしえなかったことです。が、周りの人たちに相談したり、不足部分は補ってもらったり、一緒に作り上げて、実現していく力を発揮できるようになりました。

◆ その後の学びについて

プログラムを受講後、自分に足りない知識がまだまだあることに気がつきました。明治大学リバティアカデミーではビジネス関連の学びが続けられることから、ファイナンシャルプランニング技能検定3級取得の講座を受講し、試験も無事合格しました。自分の家族だけでなく、従業員の社会保険、税金などの相談やアドバイスにも役立っています。資格取得が目的ではなくても、人生100年時代を生きるためのお金に関する知識や姿勢を考えていくためには、大変有意義な内容でした。

私自身の関心ごととして、ソーシャルビジネスの勉強も深めたいと思い、明治大学リバティアカデミーで「ソーシャルビジネスとは何か」を受講し、日本のNPOの現状や課題を学びました。フィールドワークとして、都内の廃校を利用した東京おもちゃ美術館を見学して、館長の多田千尋氏のNPOを継続し成功させていく思いやビジョンをうかがったことは、木のおもちゃや子どもの遊びに携わっていく私の関心ごとの方向性の確信につながりました。

さらに翌年には日経ビジネススクールと立教大学の共催による「ソーシャルデザイン集中講座」を受講しました。「社会課題をビジネスの手法で解決する」ソーシャルビジネスを中心に、実践の事例解説や最新の理論などを学びました。夜間6回の講義でしたが、年代、性別、職種の垣根を越えた参加者の皆さんとの勉強会は、受講から2年が経った現在も継続しています。

◆ 大人の学びはタイミングが大事

このような講座を受講することで得られる「大人の学び」には、タイミングの見極めと興味の継続が必要だと感じています。明治大学スマートキャリアプログラムも私が受講してから3年が経ち、当時とは講義の内容や担当教授が変わっています。あの時受講を躊躇していたら受けられなかった内容や、出会えなかった仲間もいるかもしれないと思うと、一歩踏み出して良かったと思います。

一方で、女性にとつては育児や介護など、生活の状況の変化と共に、時間の制約があるかもしれません。しかしながら、社会に興味を持ち続け学びを継続したいという気持ちがあれば、学びの場や情報を提供して支えてくれる人や仲間に出会うことができると思います。小さな点として積んでいった知識や人との関わりが、自分が動くことで線となって結びついて、人生を豊かにしていくと実感しています。